

コロナ後の新しい生活はどう変わる!?

区民のいのち暮らし最優先の区政へ転換を

チェンジ

1

保健所体制強化を!

— 施設でのPCR検査拡充実現! —

新型コロナ感染防止のために、検査と医療体制の抜本的な拡充を行うことが、今、国や自治体に求められています。

文京区でもようやくPCRの「社会的検査」実現

文京区は当初、PCR検査は保健所だけで間にあるとしてきましたが、区民の世論と党区議団のたび重なる要求で、5か所の医療機関への委託と後楽公園にPCRセンターを設置し、週165件の検査が可能となりました。



(後楽公園内のPCR検査センター)

また区は10月21日、「定期検査は、介護・高齢者・障がい者施設で行う」とし、「施設で患者が発生した際の検査は、濃厚接触者以外の介護・高齢者・障がい者施設、区立幼稚園・保育所等にも広げる」と発表しま

した。

区民の世論と党区議団の度重なる要望が実現しました。

保健所の抜本的強化を!

最前線となった保健所は、2000年に2か所あった保健所が1か所に統合され、保健所費は区民1人あたり667円と、23区でワースト2の水準です。

区はこの間、保健師を12名まで増員し乗り切ってきましたが、9月末で引き続き9名の応援体制と、派遣職員等看護師3名の増員体制をとっています。

医師や保健師を増員し、保健所を2か所体制に戻すなど、体制の抜本的強化が必要です。

実現しました

- 来年度私立認可保育園8園512人分増設決定
- PCR「社会的検査」の実現!
- 高齢者(65才以上)のインフルエンザワクチンが無料に
- 寄贈者の願いに添い、遊び場(水道2丁目)新設
- 公共事業の前払い金が4億円に増額!
- コロナ融資あっせん信用保証料に補助



(中央は、ほその真理衆議院東京2区、福手ゆう子都政対策委員長)

都交通局 申し入れ

10月16日、党文京区議団と福手ゆう子都政対策委員長等17名は、東京都交通局長に

● 都営三田線千石駅、

白山駅、水道橋駅に2基目のエレベーターの設置 ● 都バスの増便や屋根・ベンチの設置等を求め、交渉しました。

都からは5人の課長が対応し、3駅のエレベーターについては構造上難しい、バスの増便は運転手が不足し困難、屋根やベンチは、道路幅や地下埋設物の関係ですぐには難しいと、厳しい回答となりました。

白山上、本駒込四のバス接近表示については、即日開始されました! さらに頑張る決意です。

都バス
増便

二基目の
エレベータを

チェンジ

2

少人数学級 実現を急げ!

文京区では、2016年2月議会で「文京区独自に小・中学校全学年で35人学級制度の実施を求める請願」(新婦人文京支部)が採択されています。

文科省、少人数予算要求!

今春コロナ禍の中で、分散登校での20人学級を経験し、「ノートが全部見られ、全員の表情がわかり、全員に声かけられる」との先生の声がありました。

しかし、今35人学級は小1・2と中1で実施されているのみです。文科省は来年度予算要求に少人数学級の検討を盛り込み、正規の制度化をめざす意向で、重要局面を迎えています。

10月の決算委員会では、35人学級について「既存の諸室の普通教室化で対応できる」と答弁がありました。

30人学級は、5校(林町、窪町、昭和、駕籠町、本郷小)で教室不足となるので、増築と教員の確保が課題です。まず、35人学級の実現急げ!



区政へのご意見・ご要望をお寄せください



第109号 2020年 秋号

☎5803-1317 FAX 3811-3197



いたくら美千代
区議会議員



まんだち幹夫
区議会議員



こうだ久美子
区議会議員



関川けさ子
区議会議員



金子てるよし
区議会議員



小林れい子
区議会議員

**9月議会
決算委員会
終了!**

区議会トピックス



コロナ禍で、命と暮らしを守るという「自治体の使命」が置き去りにされてきたことが浮き彫りになりました。

638億円の基金は、PCR検査の抜本拡充、保健所を2ヶ所体制に戻すこと、住宅支援への活用等を求め、2019年度決算は「認定」しませんでした。

638億 積立金

2019年度の剰余金は56億円、貯め込み金は638億円で、予算書にのらない「留保金」も15億円あります。景気後退と消費税増税で区民の暮らしが破壊される中でもため込んだ結果です。

区は「区民の暮らし最優先」と宣言せよ

コロナの世界的大流行の中、要件緩和した住居確保給付金（家賃補助）の利用は、前年比で22倍となりました。いかに区民の暮らしが追い詰められていたかを示しています。

また、保健所費はここ20年で7割も減らし、シルバーピア増設は拒否。

認可保育園に申し込んだのに入れない児童は532人（区が待機児とするのは、うち329人）おり、自治体としての“質”が問われています。今こそ区は「暮らし最優先で施策を展開する」と、区民に宣言すべきです。



中小企業支援金 もっと手厚く 保証料補助実現

コロナ禍は、中小事業者の営業を直撃しました。国の※**持続化給付金制度**の拡充と手続きの簡素化が急務です。

「国の支援から外された事業者に援助を」と求めてきたことで、区が「中小企業継続補助金」（最大30万円）を新設。人件費、土地・建物賃借料、リース料、感染防止用品などに使えるものです。

しかし、1回のみで、締め切りが11月30日。10/21現在約2,105件の申請です。期間を延長し複数月の支援を行うべきです。

また、コロナ「緊急融資あっせん」に、信用保証料の区補助（上限30万円）が実現しました。

従来制度融資の保証料補助についても要求を強めていきます。



※前年同月比50%以上減少した事業者に法人200万、個人100万円まで現金給付する

高齢者等の住宅問題が 深刻に… シルバーピア増設と 家賃の補助を!

高齢者や障がい者、ひとり親などの入居を拒まないとする「すまいる住宅」は、昨年度登録はわずか20件、入居決定は9件のみでした。



弱者にやさしい区政が欲しい

生活保護の家賃限度額5万3700円以内の登録は、たった1件のみ。区は、「すまいる住宅の家賃にミスマッチの課題がある」と認めましたが、区住宅施策の貧困さを示すものです。また、シルバーピアの昨年度の申し込みは単身65、世帯用19人で、入居できたのは4人のみです。

低家賃住宅の確保は喫緊の課題です。シルバーピアの増設、家賃補助制度の実施を強く求めています。

避難所協定 本郷旅館組合と 結ぶ

区内の指定避難所は、小中学校など33か所。今、「3密」を避ける避難所体制が急務です。

寺院とも災害協定を!

コロナ対応で、避難所の収容可能面積に対して想定人数が大きく上回り、江戸川橋体育館（総合福祉センター含む）の想定数は1,440人のところ、「3密」対策で706人しか収容できず収容率は204%になります。

根津小、旧元町小など150~200%は8か所、本郷台中、青柳小など100~150%は12か所もあり、避難所の拡充・増設を急ぐよう求めています。

また、党区議団が再三求めていた区内旅館等との災害協定は、10月1日、本郷旅館組合と締結されました。

寺院についても協定を結ぶよう求めています。



総額200億円 にもふくらむ シビック改修工事は、 凍結・見直しを

築25年のシビックセンターの改修工事が始まっています。2018年度から10年間の改修計画です。総額は174億円、設計費用や消費税分を加えると200億円以上になります。

まず区民の暮らしと福祉を!

今年度も非常用発電設備の増設やシビックホール天井改修などに27億円以上が予算化され、外壁清掃などのためのゴンドラの取り換えと、特製クレーンの設置に3億3千万円かかります。今後、8基のゴンドラ更新も必要になるとか。

党区議団は、「優先すべきは区民の暮らしと福祉の支援だ」、「不要不急のシビック改修はいったん凍結・見直しせよ」と迫りました。



外壁清掃などに使うゴンドラ

中高生の居場所がない… 児童館は統廃合 ではなく 拡充を!

コロナ禍の中、児童館は閉鎖され、学校再開後も中高生の利用はストップされたまま。「b-ラボ」を利用するよう案内が出されていたものの、中高生から居場所がなくなったとの声が上がっています。

中高生の児童館活動再開と2ヶ所目のb-ラボを!

この間区は、「児童館のあり方」を内部検討しており、「現時点では児童館の統廃合は考えていない」としていますが、b-ラボは湯島一か所しかなく、もともと中高生の居場所が足りません。

児童館での中高生の活動を再開拡充し、さらに、2ヶ所目、3ヶ所目のb-ラボをつくること、小石川図書館の建て替えの際に学習スペースや活動室を整備することこそ、今やるべきです。



区議会の窓

9月議会の文教委員会では、報告事項はたった1つ「中学校の教科書採択結果」だけ…これは異例のことです！
どうしたのかな??????!